

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）
分担研究報告書

認知症の人に対する安全で効果的な看護手法の開発

研究分担者 深堀 浩樹 慶應義塾大学看護医療学部 老年看護学分野 教授

研究要旨 認知症の人に対して安全で効果的な看護・医療・ケアを提供する上では、身体拘束の最小化の方法を検討することが必要である。本研究では、安全で効果的な看護手法の開発の一助として、身体拘束の是非が争われた裁判例を分析し、身体拘束が行われる状況・プロセス・判断、身体拘束が当事者や家族、ケア提供者に及ぼす影響等について探索的に明らかにすることを目的とした。2019年度は、看護学・医学・法学の研究者からなる学際的研究チームの構築、身体拘束の是非が争点となった裁判例について予備的なデータ収集、裁判例を質的内容分析により分析するための分析枠組みの開発を行った。結果として、身体拘束の違法性が争点となった2件と身体拘束の必要性が患者・家族側から主張された7件の合計9件の裁判例が得られ、質的内容分析のための初期段階の分析枠組みを完成させた。

A. 研究目的

認知症の人に対して安全で効果的な看護・医療・ケアを提供する上では、身体拘束の最小化の方法を検討することが必要である。本研究では、安全で効果的な看護手法の開発の一助として、身体拘束の是非が争われた裁判例を分析し、身体拘束が行われる状況・プロセス・判断、身体拘束が当事者や家族、ケア提供者に及ぼす影響等について探索的に明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

1) 研究チームの構築

看護学・医学・法学の研究者からなる学際的研究チームを構築した。研究チームのメンバーは、分担研究者の深堀浩樹（慶應義塾大学 看護医療学部 老年看護学分野・教授）、小川朝生（国立がん研究センター 先端医療開発センター 精神腫瘍学開発分野・センター長）に加え、松原孝明氏（大東文化大学 法学部法律学科・教授）、辻麻由美氏（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 看護実践科学分野（老年看護学）・助教）、那須佳津美氏（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 看護システムマネジメント学分野・博士課程）から構成した。

2) 身体拘束の是非が争点となった裁判例のデ

ータ収集

法情報総合データベースであるD1-law.comを用いて、身体拘束について争われた裁判例（精神科を除く）について予備的な検索を行い、適格基準を満たす文献を収集した。

3) 質的内容分析に用いる分析枠組みの開発

裁判例について質的内容分析を行うにあたり、医学・看護学領域の裁判例についての先行研究と研究チームでの協議により、分析枠組みの開発を行った。身体拘束を行う（行わない）に至った状況、患者・家族側の主張、病院・施設側の主張、裁判所の判断などについて細分化し分析可能な枠組みの開発に着手した。

4) その他の関連研究

認知症の人に対する安全で効果的な看護・医療・ケア提供を検討するために、認知症の人や高齢者に関する看護・ケアに関するその他の関連研究を実施した。

（倫理面への配慮）

現時点での研究内容は、公表されている認知症高齢者への身体拘束が争点となった裁判例について予備的にデータ収集を行い、分析枠組みを検討している状況であるため、研究倫理審査の受審は行っていない。本研究内容は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の適用対象とならないと考えられるが、予備的検討を終えた段階で、適切な倫

理審査委員会に倫理審査の受審の必要性について検討を依頼する予定である。

C. 研究結果

1) 研究チームによる研究活動

2020年3月に研究チームによる打ち合わせを行い、その他、メールによる協議を複数回実施した。

2) 身体拘束の是非が争点となった裁判例のデータ収集

予備的な文献検索から得られた裁判例の内容を確認し、適格基準を判断した。その結果、身体拘束の違法性が争点となった2件と身体拘束の必要性が患者・家族側から主張された7件の合計9件の裁判例が得られた。

3) 質的内容分析に用いる分析枠組みの開発

先行研究と研究チームでの協議の結果、現時点で、身体拘束を行う(行わない)に至った状況、患者・家族側の主張、病院・施設側の主張、裁判所の判断などについて細分化し分析可能な枠組みに向け、初期段階の分析枠組みが完成した。

D. 考察

1) 研究チームの構築

看護学・医学・法学の研究者からなる学際的研究チームを構築したことにより、多様な視点から安全で効果的な看護・医療・ケアの提供方法について検討できることが期待される。

2) 身体拘束の是非が争点となった裁判例のデータ収集

2019年度は予備的な検討を行い、9件の裁判例を得ることができた。2020年度により系統的な検索・適格基準の判定を行い、対象となる裁判例を確定させていく予定である。

3) 質的内容分析に用いる分析枠組みの開発

2019年度に開発した初期段階の分析枠組みを用いて、2020年度に上記9件の裁判例の分析を行い、安全で効果的な看護手法の開発に資する分析枠組みを完成させ、裁判例の質的内容分析による解析を終了させる予定である。

E. 結論

身体拘束の是非が争われた裁判例を分析し、身体拘束が行われる状況・プロセス・判断、身体拘束が当事者や家族、ケア提供者に及ぼ

す影響等について探索的に明らかにすることを目的とし、看護学・医学・法学の研究者からなる学際的研究チームの構築、身体拘束が争点となった裁判例についての予備的なデータ収集、質的内容分析のための分析枠組みの開発を行った。結果として、9件の裁判例が得られ、質的内容分析のための初期段階の分析枠組みを完成させた。2020年度はより系統的なデータ収集を行い、質的内容分析による解析を終了させる予定である。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

論文発表(英語論文)

1. Tomotaki A, Fukahori H, et al. Exploring sociodemographic factors related to practice, attitude, knowledge, and skills concerning evidence-based practice in clinical nursing. *Jpn J Nurs Sci*. 2020;17(1):e12260.
2. Okumura-Hiroshige A, Fukahori H, et al. Effect of an end-of-life gerontological nursing education programme on the attitudes and knowledge of clinical nurses: A non-randomised controlled trial. *Int J Older People Nurs*. 2020:e12309.
3. Nishikawa Y, Fukahori H, et al. Advance care planning for adults with heart failure. *Cochrane Database Syst Rev*. 2020;2:CD013022.
4. Nasu K, Fukahori H, et al. Rebuilding and guiding a care community: A grounded theory of end-of-life nursing care practice in long-term care settings. *J Adv Nurs*. 2020;76(4):1009-18.
5. Hirooka K, Nakanishi M, Fukahori H, et al. Impact of dementia on quality of death among cancer patients: An observational study of home palliative care users. *Geriatr Gerontol Int*. 2020.
6. Higuchi A, Fukahori H, et al. Absence of Relatives Impairs the Approach of Nurses to Cardiopulmonary

- Resuscitation in Non-Cancer Elderly Patients without a Do-Not-Attempt-Resuscitation Order: A Vignette-Based Questionnaire Study. *Tohoku J Exp Med.* 2020;250(1):71-8.
7. Okumura-Hiroshige A, Fukahori H, et al. Developing a Measure of End-of-Life Care Nursing Knowledge for Japanese Geriatric Nurses. *J Hosp Palliat Nurs.* 2019;21(4):E1-E9.
 8. Nasu K, Fukahori H, et al. End-of-life nursing care practice in long-term care settings for older adults: A qualitative systematic review. *Int J Nurs Pract.* 2019:e12771.

論文発表（日本語論文）

1. 廣岡佳代, 中西三春, 深堀浩樹, 他. 認知症の有無ががん患者の看取りの質に与える影響. *Palliative Care Research.* 2019;14(Suppl.):S432.
2. 渡会紘子, 深堀浩樹, 中西三春, 他. 認知症患者における Good Death の在り方に関する認知症患者、家族、医師、看護師、介護職に対するインタビュー調査の内容分析. *Palliative Care Research.* 2019;14(Suppl.):S433.

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
特記すべきことなし。

